



AQUA

8月号

2026 AUG No.404

一般社団法人BMW技術協会 機関紙

岡山県鷺羽山花崗岩の庭園から、瀬戸内海と瀬戸大橋を望む

第35回BMW技術全国交流会のテーマ決定

『このままじゃおえん！ やってみられえBMW技術』
～水もくらしも食べものも、ぼっけえ技術でつくる地域の未来～

◎全国交流会への道③

第35回BMW技術全国交流会のテーマは、5月22日に行なわれた第2回実行委員会決定しました（AQUA7月号参照）。続けて、7月10日に行なわれた、第3回実行委員会では、開催内容（講演や視察コースなど）と参加費用などの詳細が決まり、開催案内が完成しました。BMW技術協会の会員の皆様には、このAQUA8月号を読まれる頃には、お手元に開催案内が届いていることと思います。岡山では初の開催となるBMW技術全国交流会、是非、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

【全国交流会の開催に向けて】

第35回BMW技術全国交流会

実行委員長 妹尾 芳訓

今年の第35回BMW技術全国交流会は、11月25日（水）から26日（木）の2日間、岡山県岡山市の岡山国際ホテルで開催いたします。岡山県、そして中国地方で初めてBMW技術全国交流会を開催いたします。

これまでのBMW技術全国交流会は、どちらかといえば生産者（農業従事者）の方達が中心になって、各地方で実行委員会を形成し運営されてきています。

今回の実行委員会は、一般廃棄物処理に携わる三美産業、そして生活協同組合グリーンコープおかやまを中心に、どちらかといえば消費者、暮らしの中からの目線で

BMW技術へアプローチするメンバーが中心となっています。西日本BMW技術協会とグリーンコープ連合会のご協力もいただきながら、これまでと少し違った色の全国交流会になることを期待しています。

全国交流会のテーマは、4月に行なわれた「第1回実行委員会」で、活発な意見交換が行なわれました。この厳しい時代の中、皆さんが問題意識や不安を持ちながらも、前を向いている姿に感動しました。多くの意見やキーワードが出されましたが、最終的にはグリーンコープおかやまの理事会に5つの案をまとめていただき、5月に開催しました「第2回実行委員会」において、次のテーマに決まりました。

◎第35回BMW技術全国交流会の

テーマが決まりました

『このままじゃおえん！ やってみられえBMW技術』水もくらしも食べものも、ぼっけえ技術でつくる地域の未来』

テーマに使われている岡山の方言の訳と言葉に込められた意味は次のようになります。

『このままじゃおえん』

・このままじゃ本当にだめになる
・社会や地球環境、未来への問題意識を持つ。

『やってみられえBMW技術』

・BMW技術をやってみようよ
・岡山ではあまり浸透していないBMW技術を、「やってみよう」という生産者や組合員の皆さんへ

アピール

・BMW技術を長く活用している会員にとっても、自分達から外向けへのメッセージに。

「このままじゃおえん」という社会や環境、未来への課題、問題意識があり、それらを解決していく一つの手段として、BMW技術を「やってみられえ」とつなげていきます。

『ぼっけえ技術』

・凄いい技術

・BMW技術の考え方と技術の活用から、あらためて水、暮らし、食（農）について皆で考え、地域の未来を創造していく。

・岡山県は晴れの国、水と多様な岩石も豊富。農業県でもあり食への意識も高い。

この厳しい社会情勢、環境の中ですが、BMW技術を通じて地球環境や農業生産現場について学び、共有することで生産者と消費者がお互いに理解を深め、「水」と「くらし」、そして「食（農）」の未来を皆で考えたいと思います。

11月の全国交流会では、BMの仲間が日本全国とアジアから集い、生産者・生協・消費者が一体となって議論し、学びを得て、深く交流する場となることを願い、皆様のご参加をお待ち申し上げております。よろしく願ひ致します。



第35回BMW技術
全国交流会の開催
案内はこちらから
ご覧下さい。

◎第34期西日本BMW技術協会総会・研修会報告

6月29日(月)に長崎県島原市にて西日本BMW技術協会の研修会と第34期総会を開催しました。

研修会は現地視察と座学です。座学と総会はHOTELシーサイド島原で開催しました。現地視察は、産直南島原の松尾農園が新たに建設された堆肥舎を見学させていただきました。

15時からは、座学研修会を行ないました。現地研修させていただいた産直南島原の林田斗真さんよりグループの概要、松尾隆史さんより堆肥舎の説明をしていただきました。そして、BMW技術協会全国理事の礒田有治さんを講師に、事前に耕種農家5人の土壌分析した結果を交えた「気候変動・生産コスト上昇等に対応する持続可能で安定した生産を目指すには」を講演いただきました。研修会後、17時からは第34期総会を開催しました。現地視察は38名、座学研修会は41名、総会は41名が参加されました。



松尾農園の堆肥舎にて

【現地視察】

松尾農園が新たに建設された堆肥舎を見学させていただきました。堆肥舎は、熊本県の南阿蘇村有機肥料生産センターも見学して作られており、堆肥の発酵に必要な空気を床下から送り込むためのブローアーと配管が設置されています。堆肥舎は3つに分けられており、1つのエリアに約60トンで、原料は近隣の養鶏場の鶏糞に稲ワラや米ぬか、竹チップ、落ち葉などを混ぜ、水分調整に生物活性水を使いながら、切り返しと床下からの空気で発酵させているということです。

堆肥を作り始めて30日くらいということもあり、まだ若干のアンモニア臭が残っていましたが、発酵が進んでいる様子でした。

また、堆肥舎のブローアーを設計された天神製作所の天神隆史さんが参加されていたので、堆肥舎に設置しているブローアー



配管の説明をする松尾輝文さん

を説明していただきました。配管は松尾さんが作られたそうですが、配管を見た天神さんより「見た目と水抜き用バルブの設置など、メンテナンス性を両立させたバランスがブローアー負け」と絶賛されました。

【研修会】

現地視察後、会場のHOTELシーサイド島原に戻り、研修会を行ないました。研修会の内容は以下の通りです。

(1) 産直南島原の紹介

～後継者と土づくり～

産直南島原 林田斗真／松尾隆史



林田斗真さん

最初に林田斗真さんより、産直南島原の概要を説明いただきました。産直南島原は、島原半島に位置し、火山

の恵みによるミネラル豊富な土壌に恵まれ、ジャガイモや玉ねぎ、レタスなどを栽培しています。7軒の農家のうち4軒に20代、3軒に40代の後継者がいる活気ある産地であることを説明いただきました。



松尾隆史さん

次に、松尾隆史さんより、現地視察させていただいた堆肥舎の建設と堆肥づくりの工程を説明いただきました。

た。より良い土作りのため、約3千㎡の山を切り拓き、BMW技術協会のアドバースを受けながら、床下からブローアーで空気を送る「強制通気」システムを導入したこと、地元の鶏糞を主原料に、稲わ

らや竹チップ、生物活性水を混ぜ合わせ、温度や水分量を徹底管理することで、微生物の力を最大限に活かした安心・安全な土作りを実践していることを説明いただきました。

(2) 気候変動・生産コスト上昇等に対応する持続可能で安定した生産を目指すには

目指すには

BMW技術協会 全国理事 礒田有治

あらかじめ5人の耕種農家の土壌分析を川田研究所に依頼して分析しました。

礒田有治さんより、川田研究所からのコメントを参考にしながら、分析結果の見方、考え方、地域の有用資源を活用した肥料の自給と、ミネラルバランスの整った「健全な土壌」の重要性について説明いただきました。

対策としては、過剰な成分には、施肥の制限・休止、深耕、ソルゴーなどの吸肥力が強い作物を栽培する、土壌の保肥力を高めるなどの対策、放線菌の比率を高めるために、微生物の餌となる良質な堆肥の投入や、微生物の活性を高める生物活性水などの活用が有効であることなど昨年の全国交流会で発表された茨城BMの報告事例を交えながら説明いただきました。



礒田有治氏

変わるのか。

A…変わります。例えば、アスパラガスの場合は肥料を多く必要とするなど、作物の特性に合わせた管理が必要です。

【西日本BMW技術協会第34期総会】

その後、西日本BMW技術協会第34期総会を開催しました。司会は糸島BMW農法研究会の平野洋平さん、浦克稔会長が議長をして進行了ました。

最初に浦克稔会長からの挨拶がありました。



学習会会場の様子



浦克稔会長

・多くの皆さまにご出席いただいたことを心から感謝申し上げます。また、今回の開催にあたりご協力いただいた、産直南島原の皆さま、本当にありがとうございます。

・年々、総会と総会の間が早まっているように感じます。それだけ自分の中で大変なことが起こっており、皆さまも同じではないかと思っています。

・私は豚の生産を行っており、グリーンコープへ納品しています。この1年で3名の方が廃業されることを決められています。養豚場は大きなお金を動かすことがあり、多額の借金をすることは当たり前です。そのため判断を間違えると、どうなるかわからないような業界です。そのようなため、辞められる判断をされた方は意志があるとも言えますし、大変な状況の中でも続

ける決断をされた方は覚悟があるともいえます。これは養豚業だけでなく、他の皆さんも同じではないかと思っています。

・大変な状況の中でも一緒に生き延びていくためには、こういった場で情報を共有・吸収し、判断材料を増やすことが大切だと思う。せっかく時間とお金をかけてこの場に集まっていたんだ皆様には、何か一つでも持ち帰ろうという気概を持って参加いただきたいと思っています。そして、この場がそのような有意義な場になることを願っております。

次にBMW技術協会の伊藤幸蔵理事長より来賓挨拶をいただきました。



伊藤幸蔵理事長

・西日本BMW技術協会第34期総会の開催、おめでとうございます。また、研修会の参加、お疲れ様でした。

・研修会では、産直南島原の林田さん、松尾さんの若さと勢いのある発表にこれからが楽しみだと感じさせていただきました。磯田さんの講演は土壌の考え方、そして分析を通して自分たちのツールにしていきたいと思いました。

・気候変動や自然災害、為替の上昇など農家、消費者ともに厳しい状況が続いています。そういう中で私たちは、地域と環境をどういう風に守りながら続けていくのかを、浦会長のお話の中にあつたように、こういう機会で学びな

がら繋げていただきたいと思います。

・今後も皆さんと一緒に協力しながら、頑張っていきたいと思っています。今後ともよろしく願います。

その後、議事に入りました。第1号議案「第33期（2025年度）活動報告」では生物活性水の供給状況、プラント・堆肥場巡回、各地での学習会や行事などの報告、活動報告、会員への情報の提供について、第2号議案の「第33期（2025年度）会計報告」を提案しました。続いて林田監事から監査報告（第3号議案）が行われ拍手で承認されました。

続いて、第4号議案「第34期（2026年度）活動方針」では、プラント巡回をして会員のBMWプラントが適切に管理されるようにすること、BMW技術学習会を積極的に開催すること、耕種農業における堆肥作りのサポートをすること、土壌分析を通じて「自らの栽培を見直すきっかけ作り」を行なうこと、岡山県で開催される第35回BMW技術全国交流会へ積極的に参加することを提案し、これまで無償で供給してきた生物活性水は、供給元の養豚場の事情により、今後は有償化や新たな供給元の検討が必要になる可能性があることを報告しました。

そして第5号議案の「第34期（2026年度）予算案」を提案し、拍手で承認されました。

以上で第34期総会は全て終了しました。総会後は懇親会を開催し、39名が参加、交流を深めました。

（西日本BMW技術協会事務局 秦武士）

今回土壌分析した耕種農家5人には、今回の分析結果を受けての感想や今後に向けてのコメントや質問などをいただいた後、BMW技術協会の秋山澄兄事務局長から以下のアドバイスをいただきました。

- ・分析の数値が基準を外れていても、実際には作物が健全に育っているケースがある。基準値に固執しすぎず、実際の収穫状況と照らし合わせながら、柔軟に考えることが大切である。
- ・継続的に良質な堆肥を投入している土壌は、成分が多くてもバランスを保ち、作物を育てる力強さを持っているので、色々な角度から土壌を観察し、トータルで改善を判断することが重要である。
- ・研修会の最後の質疑応答では以下のよう質問もありました。

Q…土壌の基準値は作物の種類によって

◎新潟BM自然塾
プラント点検

2026年6月22日(月)と23日(火)の2日間、新潟県内の「新潟BM自然塾」会員農場にて、BMWプラントの点検・巡回を実施しました。

【峯村農園(上越市)】

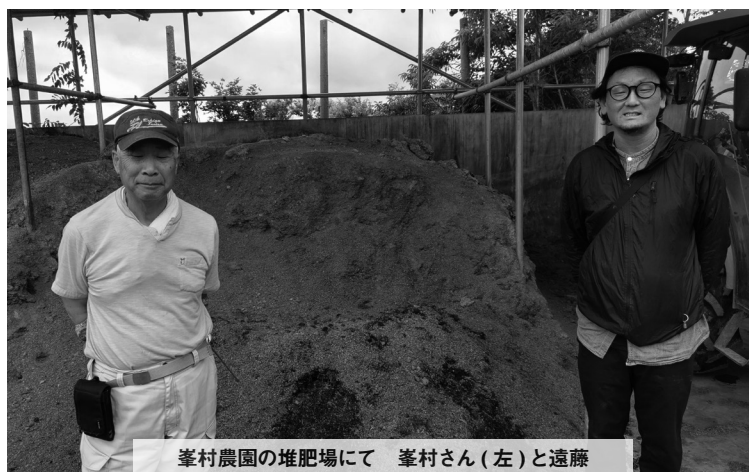
6月22日は、まず上越市の峯村農園を訪問しました。同農園の峯村正文氏は、新潟BM自然塾の共同代表であり、「BM自然塾 謙信の郷」のメンバーです。

現地で点検を行なった生物活性水プラントは、2024年5月に設置されたものです。200Lの縦型ローリータンク5槽と500Lの貯留槽を組み合わせた、生物活性水の日生産量が20Lという小型のシステムで、原料には自家製の堆肥を使っています。

最終槽の水質は、pH8.04、EC1.76mS/cmと良好な数値で、亜硝酸態窒素も検出されず、順調な稼働を確認できました。

このプラントでつくられた生物活性水は、隣接する堆肥舎での堆肥づくりなどに活用されています。堆肥はもみ殻、米ぬか、醤油糟、軽石(ケイセキ)、山土を混合したもので、その仕込み時の水分調整に生物活性水が使用されています。

じっくりと時間をかけて発酵させることが管理の要点であり、峯村氏は「堆肥も生物活性水プラントも、なんだか生き



峯村農園の堆肥場にて 峯村さん(左)と遠藤

物を飼っているようで楽しい」と話されていました。

【金谷農場(上越市)】

続いて、「BM自然塾 謙信の郷」の代表を務める金谷武志氏の金谷農場を訪問しました。ここでは有機栽培米の圃場(ほじょう)視察と、将来的な生物活性水プラント導入に向けた現地調査を行いました。

当日は田んぼに溝を切る「江(え)立て」の前の段階にあたり、圃場ではアヒルによる生物除草が行われていました。あわせて実施したプラントの設置調査では、阿賀野市の夢の谷ファームの実例をモデルとし、作業場へのトイレ新設と、それに接続するシステムを想定して現場の確



夢の谷ファームの生物活性水プラントにて

認を行いました。

周辺環境やスペースを見て回った結果、問題なく導入できる見通しが立ちました。実際の設置自体はまだ先になりそうですが、今後の導入に向けて具体的な一歩となる現地調査となりました。

【夢の谷ファーム(阿賀野市)】

翌23日は、阿賀野市にある「夢の谷ファーム」を訪問しました。同ファームは新潟BM自然塾の石塚美津夫共同代表が運営されており、パルスシステムの組合員や職員、学生などが里山交流のために年間700人以上(今年はアメリカからも25人)訪れる交流拠点です。

多くの人が集まる一方で、長年トイレがないことが課題となっていました。が、新施設へのトイレ設置にあわせ、2023年にBMW技術を用いた「し尿」処理循環システムが導入されました。

このプラントは、1槽が1,000Lのバルクタンク5槽と、500Lの有機

物抽出1槽で構成されています。トイレの排水をベースに処理を行います。冬季など来訪者が少なく有機物が不足する時期には、石塚氏が自家製造したボカシの浸出液を添加して処理と循環を維持しています。

今回の点検時、最終槽の数値はpH7.69、EC0.23mS/cmと低くなっていました。しかし、直前の土日に約160名の来訪者があったことから、第1槽のECは2.11mS/cmと高濃度な状態になっており、これから微生物の働きによって順調に処理が進んでいくプロセスにあります。

なお、今回の点検では、リアクターステムの充填材の交換、および全体の水位とエアの調整作業を行いました。

点検後、同地域にある笹岡小学校の菜園を視察しました。ここでは、無農薬・無化学肥料の「菌ちゃん&石塚園農法」をベースに、子どもたちが自分の名前が入った苗で野菜を栽培しています。自分で育てて収穫した野菜を家庭へ持ち帰り、みんなで味わうという生きた食育の取り組みです。

石塚氏は栽培環境の向上にも力を入れられており、今年はサル対策の防護ネットやドアを設置したほか、日照と風通しを確保するために、木陰を作っていた樹木の伐採も行ったそうです。石塚氏は「次はきゅうりの棚を作ってあげなければ」と、今後の取り組みについて嬉しそうに話していました。

(報告:匠集団そら 遠藤尚志)

◎グリーンコープ生協ふくおかのBMW技術学習会が開催されました

7月15日(水)、学習会は「自然の力で、育てるってどういうこと?」というテーマでグリーンコープの会議室とオンラインのハイブリッドで開催されました。

講師はBMW技術協会技術顧問で京都大学の奥地拓生氏、BMW技術協会事務局長の秋山澄兄氏です。

参加者は会場32名、オンライン69回線でした。グリーンコープ生協連合会BMW事務局の秦さんと、西日本BMW技術協会の宮崎が参加しました。

グリーンコープ生協ふくおかの坂本寛子理事長の司会で始まり、最初に安部百々さんから、BMW技術によりどのように環境が変わるのかを実感してほしい、そして今日の話を誰かに話してみたい、そんな学習会になるはずですよという話がありました。

今回の学習会は昨年6月に奥地氏が赤村で講演された内容をグリーンコープ生協ふくおか全体でお聞きするという趣旨でもあり、昨年と同じ資料「赤村の農業



GC ふくおか 学習会の会場

と水と花崗岩」というタイトルでお話しいただきました。



奥地拓生氏

赤村の岩石山(か
んじやくさん)の
花崗岩の話、平尾
台の石灰岩の話、
花崗岩の表面の地
衣類の話から地球の成り立ちの話に及び
ます。生命の誕生と、地殻・海水・人体
のミネラル構成が似通っていることなど
話は尽きません。

一昨年グリーンコープ生協ひょうご
で、昨年福岡県の赤村で、今年の全国交
流会は岡山で開催する、これらの地域は
花崗岩でつながっているという話になり
ます。地球規模の話でプレート、マグマ、
石灰岩には皆さんお世話になっているが
お世話のなり方もそれぞれ違うというこ
とでした。

次に秋山氏から、BMW技術を通して
自然環境を学ぼう、ということ、グリー
ンコープとBMW技術のつながり、BMW
技術を活用しているグリーンコープの
生産者、BMW技術協会の考え方などの
話がありました。

そして農業での活用事例、耶馬溪ファ
ームのBMW技術ということ、どのように
活用されるのかの説明がありました。

最後に、暮らしの中でのBMW技術と
いうことで、生物活性水BMさら、BM
菌体、BM活性堆肥、活水器、実りの土
などの話がありました。

そして、講演についての質疑応答です。
Q…生物活性水を1年以上前に購入した
が使えるか。

A…基本的に1年くらいで使ってほし
い。オリがたまっているかもしれない
いが、使える。

Q…臭いを使う場合は原液がよいか。

A…原液で使ってください。

Q…ペットに飲ませてよいか。

A…飲ませてよい。

Q…生ごみをBM菌体で処理する方法
は風通しの良いところですか。

A…処理するバケツは密閉して使って
ください。下から出る液は流して捨て
てもらうのが良い。

Q…コーヒークスをためてBM菌体を振
りかけて土にかえしている。この方
法は良いか。

A…土壌改良になっていると思う。

最後に昨年の茨城でのBMW技術全国
交流会に参加された中村晶子さんから
「農家の発表で例えばキャベツなどの収
量がとても増えた、土壌分析で具体的
な数字を聞いて納得することとまだ不思議
なことがある、そこにロマンを感じる」
という報告・感想がありました。

今回は少し時間が足りなかったことも
あり、秋山氏より話の最後に「再度開催
していろいろ話ができるようにぜひ願
いしたい」ということでした。次の機会
があると良いと思いました。

(西日本BMW技術協会 宮崎利明)

BMW技術協会・匠集団その公式ホ
ムページとSNSを、是非一度ご覧下
さい。ホームページでは、BMW技術及び
BMプラントについて、BMW技術関連
商品のWEBショップ、SNSでは日々
の活動報告などを掲載しています。

◎書籍のご案内

「BMW糞尿・廃水処理システム」

BMW技術協会顧問の長崎浩氏著書
農文教の民間農法シリーズから発刊され
ている、「BMW糞尿・廃水処理システム」。
BMW技術協会・匠集団そのホームページ
のWEBショップでご購入できます。B
MW技術のバイブル、この機会に是非、お
求め下さい。



FACEBOOK



Instagram



公式HP



WEBショップ

◎ 耶馬溪ファーム（大分県中津市）

新たな酪農場の運営が、生産者・生協・消費者の手によってスタートしました

大分県中津市耶馬溪町金吉に、乳牛800頭、牛乳の日生産量18t、ヨーグルト4tの酪農場が完成し、7月1日

（水）に同農場の牛舎にて開場式が行なわれ260人が出席、BMW技術協会からは伊藤幸蔵理事長、奥地拓生技術顧問、山本伸司相談役、事務局の秋山、匠集団そらの星加浩二取締役が出席しました。

開場式では、神事後、耶馬溪ファーム代表取締役社長・脇坂伸彦氏、グリーンコープ共同体の日高容子理事長の挨拶などが行なわれ、テーブルカットの後、5〜6組に分かれて場内の見学会が行なわれました。BMWプラントの紹介と説明は、

西日本BMW技術協会の秦武士事務局長と星加氏が行ないました。

耶馬溪ファームは、下郷農業協同組合、耶馬溪酪農業協同組合、グリーンコープ生活協同組合連合会の3社で協同経営され、グリーンコープ生協の組合員向け瓶牛乳を生産する酪農場として、標高420メートルの中山間地に約14ヘクタールを整備して建設されました。

7月10日（金）には初任牛が約50頭、15日（水）と16日（木）搾乳牛が約80頭入り、2028年3月までに乳牛約800頭、乾牛、仔牛などを合わせ約1000頭規模になる予定です。

この農場のBMW技術は、飲水改善プラント、パーラー（搾乳施設）から出る排水を処理する排水処理プラント、その処理水を原料に生物活性水プラントを導入しました。飲水改善プラントは日使用量180t、排水処理は日排水量25t（最大30t）、生物活性水の日生産量は約4t、西日本では最大規模のBMW技術プラントになります。

【飲水改善プラント】

コンクリートの土木槽の総容量は約360t、日量180tの飲水改善水を作ります。搾乳牛1頭につき日量150Lを使用すると計算し800頭で120

t、その他には仔牛や乾牛などの飲水、畜舎を含む施設の洗い水、パーラー（搾乳施設）での使用を合わせて約60tで計算し、日量使用量を180tで計算しています。飲水改善水は2日の滞留が必要なので貯留槽を合わせて約360tとなっています。

水源の井戸から取り入れた水は、腐植土と自然石に触れながらエアレーション（曝気）を行うことで水質が改善されまゝ。この水が貯留槽から牛舎へと供給される段階で、隣接するプラントの「生物活性水」を希釈添加し、より質の高い飲み水へと仕上げています。この水を牛たちが飲むことにより、①牛の健康状態の向上、②生産性（乳量）・乳質の向上が期待できます。さらに、畜舎全体の環境改善にもつながり、③悪臭の防止やハエの抑制といった効果も発揮します。



耶馬溪ファーム全体



開場式でのテーブルカット 脇坂代表（左から2人目）、右は日高理事長



開場式で排水処理プラントの見学会



BMW飲水改善水を飲む牛たち

【排水処理プラント】

コンクリートの土木槽の総容量は約300t、日最大排水量30tを10日間かけて処理する仕組みになっています。

パーラー（搾乳施設）から出てきた排水は、第1原水槽を経てスクリーン装置でし渣（固形物）を除去した後、第2原水槽を通過して流量調整槽に送られます。次に日々の排水量を調整しつつ曝気槽へ流入します。汚泥培養槽にはBMWリアクターシステムが設置されており、リアクターに充填されている腐植土と自然石により曝気槽内の活性汚泥（バクテリアと有機物の塊）が活性化されて、原水の有機汚濁成分を処理していきます。

その後、沈殿槽で活性汚泥を沈めて、上澄み水だけを自然石槽を経て放流槽へ送ります。処理水は放流槽からそのまま側溝に放流されるほか、一部は生物活性水の原料として活用します。

また、沈殿槽で沈降した汚泥の一部は汚泥分配槽を介して汚泥貯留槽に集められ、汚泥脱水機によって脱水ケーキに加工された後、し渣とともに堆肥施設で堆肥にしていけます。

【生物活性水プラント】

コンクリートの土木槽の総容量は約320t、曝気槽1槽が40t×6槽、20tの自然石槽が4槽に分かれており、生物活性水の日生産可能量は4tです。原料は排水処理プラントからの処理水と、耶馬溪ファームで製造される堆肥を活用します。第1槽目にはBMWリアクターシステムが設置されており、約50日間か

けてじっくりと培養・精製され、微生物やその代謝物などと、岩石由来の豊富なミネラルが詰まった生物活性水が完成します。

■生物活性水の牛と牛舎への効果

●健康維持・乳房炎の予防

飲み水に混ぜて腸内細菌を整え、牛の免疫力を向上。健やかな体と良い乳質を支えます。

●牛舎環境の改善（体内ケア）

飲むことで糞尿の臭いが和らぎ、畜舎の悪臭やハエの発生を抑えます。

●堆肥の高品質化

堆肥の水分調整に使うことで発酵をスムーズに促し、臭気を抑えます。

（報告：BMW技術協会 事務局 秋山澄兄）

耶馬溪ファーム BMW 技術 資源循環サイクル

耶馬溪ファームでは、自然界の土壌が持つ浄化作用に応用した「BMW 技術」を導入しています。葉に頼らず、「B（バクテリア・微生物）・M（ミネラル）・W（ウォーター）」の力で、水と資源を再生し、資源を無駄にしない持続可能な農業を行っています。

① BMW 飲料改善プラント

牛たちが飲む「生きものに良い水」

地下水に自然石と腐植土の力をプラス！牛が健康になり、ミルクが美味しく、牧場のニオイも抑える「生きものに良い水」を作ります。

③ BMW 生物活性水プラント

微生物とミネラルの

力がつまった「生物活性水」
・牛が健康に！飲み水に混ぜて免疫力を高める！
・牧場のニオイをおさえる！
・畜舎の悪臭やハエの発生を抑える！
・高品質な堆肥づくり！
（ミミズは発酵を促進し、製造時の臭いもカット）
・地域や暮らしにも！
作物の根張りを良くし、家庭菜園・ペットにも活躍（グリーンコープ商品「BIM さら」販売中）



監修 一般社団法人 BMW 技術協会 設計・施工 株式会社 森田

■宇根豊

「農本主義のすすめ」ちくま新書

宇根豊氏との出会いは、私が農水省の農業者大学校の一年生の時、「福岡県には宇根豊」という変わった普及員がおり」と独特の福岡弁で同級生の水落君が教えてくれました。彼とは寮の部屋が隣でした。

昭和40年代の初めはまだまだ稲作は増収時代で、懐かしいV字型稲作の松島省三さんが講師でした。一方、「複合汚染」「公害」も注目されて「無農薬」と言う言葉も生まれた時代もこの頃です。

宇根さんの講義で新鮮だったのは「減農薬栽培」と言う稲づくりでした。以後、「虫見板」の普及から「ただの虫」の発見。県職員退職後、2001年にはNPO法人農と自然の研究所を設立し、全国に「減農薬運動」が広がり「生き物調査」の実践と「田んぼの学校」が展開されました。

新潟県では同じ新潟県農業普及員の堀井修さんが、考え方や実践を広めました。「朱鷺と共生する佐渡農業の実践」は今日に生きている。

この書は宇根豊版の農の思想書です。因みに「環境保全型農業」なる概念・言葉を作ったのは、農水省の農業者大学校長を務めた久宗高氏です。

本題に入ります。著者が最も言わんとすることは最終章にあります。昨今話題に

◎まさ爺のお宝ライブラリー① 峯村正文

なっています有機農業に関する財務省の提言・妄言・勘違い。今に始まった事ではないが呆れるのは私だけではないでしょう。

私見ですが有機農業は低収量なる思い込みは単なる情報不足で霞ヶ関の頭の中は確かに霞んでいます。著者はこれらの問題に明確に答えています。

天地に浮かぶ農という舟に、農業と言うボートを積んでいるイラストがあります。農は天地に浮かぶ大きな舟です。そして宇根さんは断言します。農本主義者とは「みんなは農というこの舟に乗っているんだ」と静かに断言する人のことです。

宇根さんは私たちに大きな宿題を提示しました。農本主義のひとつは新しい伝統の創造です。「田んぼの生き物調査」の百姓仕事から生き物へのまなざしを強める手段とせよ！

この書は寝転んで読める書ではありません。まず難しい。しかし、私のように江立しながら赤トンボの出会いに感動したり、ゲロゲロと鳴く蛙の声に眠気が増し、燕の巣立ちにワクワクする感性があればさして苦痛なく読めます。

余談ですが我が恩師、農業者大学校の社会学の先生が、東京農業大学の農業思想ゼミを担当した内山政昭先生でした。尊徳の研究者でしたから宇根さんの著書に書いてなかった事を記して筆を置きます。「尊徳の農業観。農業とは作為の道であり天然自然にあらず。」

（文責 新潟BM自然塾共同代表 峯村正文）

事務局だより

BMW
技術協会
&
匠集団そら2026年
7月
JULY
1
2026年
8月
AUGUST

7月の活動

1～31日 大分県中津市の耶馬溪ファームにてBMWプラントの調整作業

1日 大分県中津市の耶馬溪ファームにて行なわれた開場式に出席

2日 埼玉県飯能市の生活クラブたまご飯能GPセンターにてプラント点検

3日 宮城県仙台市にて開催された、あいこープ資源循環型農業推進プロジェクトの学習会に参加

7日 山梨県北杜市で開催されオーガニックカレッジやまなしに参加

静岡県熱海市で開催されたパルススム協力会総会に出席

9日 大分県中津市にて下郷農業協同組合牛乳工場にて工場建設会議に出席

10日 第35回BMW技術全国交流会の開催に向け、第3回実行委員会を開催

14日 福岡県宮若市のグリーンコープ連合会若宮物流センター、筑紫野市の福岡青果センターにてプラント点検

15日 福岡県博多市のグリーンコープふくおかにてBMW技術基礎学習会

22日 BMW技術協会若手幹事会をオンラインで開催

24日 千葉県千葉市で千葉BMW技術協会の総会と研修会

28日 山形県村山市のバル・ミート山形事業所にてプラント点検

8月3～4日 第26回BMW技術基礎セミナーを山形県の米沢郷牧場グループにて開催

8月の予定

1～31日 大分県中津市の耶馬溪ファームにてBMWプラントの調整作業

6日 埼玉県飯能市の生活クラブたまご飯能GPセンターにてプラント点検

11～16日 事務所夏期休業

18～20日 茨城県鉾田市の米川農園にて生物活性水プラントの補修工事

25～26日 宮城県内にて、みやぎBMW技術協会のメンバーのプラント巡回(4カ所)

■事務局長の呟き

8月に開催する第26回BMW技術基礎セミナーは、50名以上の参加申込みをいただきました。地域資源循環型農業とBMW技術のモデル地域のバイオニア的存在だけに、関心の高さが伺えます。次号9月号ではこの基礎セミナーの報告を掲載します。

6～7ページの記事にあります。大分県中津市耶馬溪町の耶馬溪ファームが稼働を開始しました。日本人と外国人の若いスタッフの皆さんが、生き生きと働かれています。素晴らしいものです。牛も約100頭入り、BMの飲水改善水を美味しそうに飲んでもらっています。

排水処理プラントは日々変化があり、調整を続けています。今のところ、処理水は水のように透明で綺麗に仕上がっています。

2028年のフル稼働(予定飼養数800頭の乳牛が揃う)まで、まだまだこれからですが、BMW技術をもって農場の土台を支えていきます。

薬膳の話 151
パセリ

熱中症かな?と思った時は、左右の親指を除く4本の指で、みぞおちを少し押し込むように押さえます。硬くなっているところがあり、押すと痛みますが、じーっと押さえていると、だんだんゆるんできます。

さらに左右に少し揺ります。楽になったら、頭頂部を冷やし、塩分と水分を補給します。

急に体の力が抜けたり、頭がボーっとしたり、だるくなったりした時は、塩分不足かもしれません。塩をなめたり梅干しを食べたりして補給します。

古代ギリシャやローマ時代、パセリは神聖な植物として、競技会の勝者に贈られる冠に編み込まれたり、魔除けとして飾られたりしていました。ギリシャ神話では、死した英雄が流した血から生えた植物で「死の象徴」とされ、葬儀に使われたり墓地に植えられたりしました。

四気は「温」、五味は「辛」、帰経は「肝臓、胃、すい臓」です。はしかの発疹を促す時に使います。温性で発汗作用がある「辛」の特性で、身体を温めて発汗させ発疹を起し、はしかを早く治します。

気を巡らせて胃腸の働きを整え、血の巡りも促して、生理不順や生理痛を緩和します。利尿効果もあり、むくみや湿度から来るだるさを軽減します。肝臓の熱を取り、充血やめまい、イライラを抑えます。

独特な香りは「アピオール」で、強力な殺菌作用があります。アピオールの精油は無月経、生理不順、妊娠中絶に使われますが、パセリを通常の量で食べる場合は医学的な問題はありません。



●パセリカレー

【材料】 合いびき肉200g、パセリ大束1束、カレー粉大さじ1、トマト水煮1、3カップ、ニンニク、ショウガ あればカレー用スパイス(クミン、コリアンダー、ターメリック、ガラムマサラ等のパウダー)

【作り方】 パセリは葉と茎を分け、葉は粗みじん、茎はみじん切り。ニンニク、ショウガはおろす。

鍋にひき肉と塩・コショウ、カレー粉、スパイスを入れてよく混ぜてから火をつける。中火で肉に火が通るまで炒めたら、パセリを数回に分けて入れ、ホールトマト、水100cc、塩コショウを加え、蓋をして弱火で15分ほど煮る。最後にニンニクとショウガを加えて味を見る。

◎BMW技術協会事務局 佐々木エリカ

北京中医药大学日本校薬膳養成学科卒業、中医薬膳士、総合漢方研究会会員、昭和漢方生薬ハーブ研究会会員。